

令和4年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 高知県高知市丸ノ内1丁目7番52号  
管理機関名 高知県教育委員会  
代表者名 伊藤 博明

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年4月1日（契約締結日）～令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 高知県立大方高等学校  
学校長名 正木 敏政  
類型 地域魅力化型

3 研究開発名

「地域密着型の未来の“地域の創り手”人材の育成（ソピアの旗）プロジェクト」

4 研究開発概要

本校はこれまで、総合的な探究の時間において「自律創造型地域課題解決学習」を柱として位置づけ、コミュニティ・スクールの強みを活かした取組を進めてきた。近年は学校設定科目である地域学において地域防災における課題解決に取り組んでいる。生徒たちは、地域に出て地域から学ぶことにより課題解決能力が身に付いており、探究力の向上や地域貢献等への意欲も向上している。

今後は本事業を通してつきたい力「探究力」「つながる力」「多様性受容力」「マネジメント力」「レジリエンス」を育成するとともに、直接・間接に関わらず郷土を愛し誇りをもった未来の「地域の創り手」となる人材の育成を目指す。そのため外部の専門家との連携を基に、新学習指導要領で位置づけられている探究活動を推進し、効果的なカリキュラムの開発を行い、事業終了後も改善を進めながら効果的な取組を継続していく。

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・ 学校設定教科・科目  開設している ・  開設していない
- ・ 教育課程の特例の活用  活用している ・  活用していない



(2) 実績の説明

①運営指導委員会について

活動日程	活動内容
令和3年6月21日	第1回運営指導委員会 ア 令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業の取組についての説明。 イ アに対しての意見や助言をいただいた。 ウ 「OODAループの回し方やPDCAとのケースよっての使い分け等」、「ループリック評価」について協議が行われ、指導・助言をいただいた。
令和4年2月7日	第2回運営指導委員会 ア 令和3年度の取組・成果・課題についての説明と、次年度以降の取組についての説明。 イ アに対しての意見や助言をいただいた。振り返りの重要性や、探究活動が実社会で役に立つ力につながり学んだ事が生かすようにする工夫すること等の指導・助言をいただいた。

②コンソーシアムについて

活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和3年7月20日	第1回コンソーシアム委員会 ア 令和3年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の取組について、令和3年度第1回運営指導委員会でもいただいた指導・助言を活かした事業計画等の報告。 イ アに対しての意見や助言、協働できることの提案をいただいた。 ウ 学校から「PBLを行うにあたってのインプット材料」、「SDGsにかかわる企業や人材」に関して、情報提供を求め、それぞれ、情報をもらい、その情報を活用した学びについても意見や助言をいただいた。
令和3年10月28日	第2回コンソーシアム委員会 ア ここまでの取組・成果・課題についての説明と、今後の取組についての説明。 イ アに対しての意見や助言をいただいた。 ウ コンソーシアムと学校の連携についての協議。
令和3年11月27日	日本赤十字社との連携 同窓生で日本赤十字に勤務しているコンソーシアム委員の仲介で高知県青少年赤十字高校生連合会総会に参加。参加した生徒と防災活動に関して交流を行った。
令和3年4月30日、7月1日、8月23日、8月6日、10月11日、1月13日、令和4年3月8日	ふるさとキャリア教育 黒潮町まるごと教育祭 教育祭の発表やコロナ禍での実施方法等についての協議を実施。保育所、小学校、中学校などの関係機関と6回の協議を重ねた。昨年に引き続き、コロナ禍により集合しての発表は難しく、黒潮町のケーブルテレビで配信した。
令和4年2月14日	第3回コンソーシアム委員会 ア 令和3年度の取組・成果・課題についての説明と、次年度以降の取組についての説明。 イ アに対しての意見や助言をいただいた。 ウ コンソーシアムと学校の連携についての協議

③カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けは以下の通りである。

【総合的な探究の時間のカリキュラム開発担当】

高知大学 次世代地域創造センター客員准教授の川村晶子氏（都度謝金支払い）

・本年度は6回来校。オンラインでの協議18回。大学での協議2回。

【地域学のカリキュラム開発担当】

京都大学矢守研究室研究員の杉山高志氏（都度謝金支払い）

・本年度はコロナ禍により来校できず。オンラインでの協議17回。

活動実績【総合的な探究の時間】

活動日程	活動内容
令和3年5月14日	オンライン ・カリキュラムの内容について
令和3年5月28日	オンライン ・進捗状況の共有と意見交換
令和3年6月1日	オンライン ・進捗状況の共有と意見交換
令和3年6月8日	オンライン ・取組状況の共有と課題解決に向けた意見交換
令和3年6月29日	オンライン ・進捗状況の報告と今後の方向性に向けた協議
令和3年7月5日	オンライン ・進捗状況の共有と意見交換
令和3年7月13日	オンライン ・進捗状況の報告と今後の方向性に向けた協議
令和3年8月3日	高知大学次世代地域創造センターで協議 ・進捗状況の報告と今後の方向性に向けた協議
令和3年8月24日	オンライン ・次年度の方向性と探究活動について協議
令和3年9月10日	オンライン ・進捗状況の報告と今後の方向性に向けた協議
令和3年9月21日	対面 ・3年生発表会の講評等
令和3年9月29日	オンライン ・進捗状況の共有と意見交換
令和3年10月8日	オンライン ・進捗状況の共有と意見交換
令和3年10月14日	オンライン ・進捗状況の共有と意見交換
令和3年10月27日	オンライン ・進捗状況の共有と意見交換
令和3年11月12日	オンライン ・進捗状況の共有と意見交換
令和3年12月3日	高知大学次世代地域創造センターで協議 ・進捗状況の共有と意見交換
令和3年12月7日	対面 ・3年生と対話による意見交換および助言
令和3年12月21日	対面 ・3年生のプレゼンテーションへの助言
令和3年12月22日	オンライン ・進捗状況の共有と意見交換
令和4年1月4日	対面 ・進捗状況の共有と意見交換
令和4年1月11日	オンライン ・3年生発表会の講評等
令和4年1月14日	オンライン ・進捗状況の共有と意見交換
令和4年1月21日	オンライン ・進捗状況の共有と意見交換
令和4年1月25日	対面 ・1年生ワールドカフェの評価等
令和4年2月15日	対面 ・2年生発表会の評価等

活動実績【地域学】

活動日程	活動内容
令和3年4月8日	オンライン ・地域学のカリキュラムの全体像について ・未来へのメモワールについて ・教科横断的防災学習について
令和3年4月16日	オンライン ・地域学のカリキュラムの全体像について ・未来へのメモワールについて
令和3年6月10日	オンライン ・防災委員会の取組について ・活動を効果的に進めるための意見交換
令和3年6月15日	オンライン ・進捗状況の報告と今後の方向性に向けた協議
令和3年6月29日	オンライン ・防災委員会の取組について ・活動を効果的に進めるための意見交換
令和3年7月6日	オンライン ・JICAとの交流についての打ち合わせ
令和3年7月13日	オンライン ・JICAとの交流についての打ち合わせ
令和3年7月30日	オンライン ・大方・佐賀中学校への出前授業について ・出前授業に関する振り返りと共有
令和3年8月20日	オンライン ・JICAとの交流についての打ち合わせ ・教科横断的防災学習について
令和3年9月10日	オンライン ・黒潮町地区防災計画シンポジウム（発表）の協議
令和3年9月29日	オンライン ・大方・佐賀中学校への出前授業について ・出前授業に関する振り返りと共有
令和3年10月12日	オンライン ・臨時情報について
令和3年11月25日	オンライン ・進捗状況の報告と今後の方向性に向けた協議
令和3年12月6日	オンライン ・入野小学校への出前授業について ・入野小学校への出前授業に関する振り返りと共有
令和3年12月14日	オンライン ・臨時情報について
令和3年12月21日	オンライン ・臨時情報について
令和4年2月28日	オンライン ・次年度の取組について

上記の活動の他に、電子メール等によりカリキュラムの内容や評価、展開上の留意点等についてやり取りを行った。

④地域協働学習実施支援員について

指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けは以下の通りである。

大方高校地域学校協働活動推進員 松田真紀氏（都度謝金払い） 18回来校

大方高校地域学校協働活動推進員 西村優美氏（都度謝金払い） 12回来校

活動実績

日程	内容
令和3年4月9日	地域連携についての協議（松田）
令和3年4月13日	地域連携関係者 訪問・協議（松田）
令和3年4月20日	地域連携関係者 訪問・協議（松田）
令和3年4月27日	地域連携関係者 訪問・協議（松田）
令和3年5月11日	地域連携についての協議（松田）
令和3年5月18日	地域連携についての協議（松田）
令和3年5月21日	地域連携についての協議（西村）
令和3年5月25日	総合的な探究の時間についての協議（松田・西村）
令和3年6月1日	総合的な探究の時間についての協議（松田）
令和3年6月15日	総合的な探究の時間についての協議（西村）
令和3年6月21日	運営指導委員会（松田・西村） 地域協働学習実施支援員として出席
令和3年6月22日	総合的な探究の時間についての協議（松田）
令和3年7月13日	総合的な探究の時間 3年生PBL中間発表会（松田・西村）
令和3年7月20日	コンソーシアム委員会（松田・西村） 地域協働学習実施支援員として出席
令和3年9月21日	総合的な探究の時間 3年生PBL発表会（松田・西村）
令和3年12月2日	地域連携関係者 訪問・協議（松田）
令和3年12月3日	地域連携関係者 訪問・協議（松田）
令和3年12月7日	総合的な探究の時間 3年生アイデア磨き（西村）
令和4年1月11日	総合的な探究の時間 3年生アイデア発表会（松田・西村）
令和4年2月1日	総合的な探究の時間 2年生アイデア磨き（松田・西村）
令和4年2月7日	運営指導委員会（西村） 地域協働学習実施支援員として出席
令和4年2月14日	コンソーシアム委員会（松田・西村） 地域協働学習実施支援員として出席

⑤管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

- ・各種会議等における日程調整や情報提供
- ・円滑な事業執行のための学校への助言
- ・国費に上乗せした独自の支援や取組の実施
- ・地域協働学習実施支援員の配置
- ・高知県青少年赤十字高校生連合会総会との連携（コンソーシアム）
- ・発表会や研究会での評価者としての参加および評価者人材紹介（コンソーシアム）
- ・地域学の防災学習における助言（コンソーシアム）

⑥高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

令和2年5月25日に、「黒潮町と高知県立大方高等学校における防災・地域課題解決を担う未来の地域の創り手人材の育成に係る協定書」を締結した。

〈添付資料〉黒潮町と高知県立大方高等学校における防災・地域課題解決を担う未来の地域の創り手人材の育成に係る協定書

⑦事業終了後の自走を見据えた取組について

事業終了後も取組を継続させていくため、防災と地域課題解決に関する取組に対して継続した支援をもらえるよう、黒潮町と協定を締結している。

併せて、黒潮町の人口減少の中、大方高校の魅力化促進に向け黒潮町と継続協議を行うこととしている。

## 10 研究開発の実績

### (1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域学（地域学入門）探究学習	4回	7回	7回	5回	1回	5回	6回	7回	6回	6回	8回	
地域学（地域学Ⅰ）探究学習	6回	6回	8回	4回	2回	6回	6回	6回	6回	6回	6回	
地域学（地域学Ⅱ）探究学習	10回	14回	14回	8回	2回	12回	12回	16回	10回	8回		
総合的な探究の時間（1年）	3回	2回	6回	2回	1回	3回	2回	3回	5回	3回	4回	
総合的な探究の時間（2年）	3回	3回	4回	3回	1回	4回	3回	3回	3回	5回	6回	
総合的な探究の時間（3年）	3回	3回	8回	2回	1回	3回	2回	3回	3回	2回		
課外活動における地域との協働活動				1回		1回	2回		4回	2回	2回	

### (2) 実績の説明

#### ①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

本事業の中核となっている学校設定科目である地域学と総合的な探究の時間において、探究活動を位置づけた年間の活動イメージを、カリキュラム開発等専門家の助言をもとに作成した。その際、「情報収集力」、「情報分析力」、「情報編集力」、「判断・決定力」、「論理的思考力」、「表現力」、「批判的思考力」等の課題発見・解決に必要な力を、学年ごとに身に付ける目標を定め活動を決定した。

生徒には、年度当初に年間計画、ルーブリック評価、卒業までに目指す生徒像等を提示し、年間の見通しと身に付けさせたい力の共有を図り事業を進めた。進めるにあたっては、生徒の状況に応じてその都度手法を変更するなど柔軟に対応しながら展開した。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、計画していた取組が実施できないこともあったが、実施時期や時間数等を調整しながら、また、オンラインを活用するなどして学びの場が失われないよう、できることを進めた。

〈添付資料〉地域学と総合的な探究の時間の「活動イメージ」

#### ②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置づけ（各教科・科目や総合的な探究の時間、学校設定教科・科目等）

本年度は、学校設定科目である地域学、総合的な探究の時間、学校行事等で横断的な学習を計画した。

#### ③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

本年度は、各教科においての防災の観点を取り入れた探究的な授業展開について、カリキュラム開発等専門家である杉山氏を講師にオンラインにて研修会を開催した。また、学校行事においてもテーマと関連させた取組を行った。

#### ④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

研究開発のイメージを示したビジュアル資料をもとに職員間で共有を行い、下記の育てたい5つの力を育成するために、「総合的な探究の時間」の学年担当者、「地域学」担当で基本的に毎週協議を行い、学年団で共有を図った。

【育てたい5つの力】

I 探究力	情報収集による課題理解・解決に向けた課題解決力
II つながる力	コミュニケーション・プレゼンテーション力、思いや願いの理解
III 多様性受容力	多様な人との交流や理解
IV マネジメント力	計画を立て取り組める力
V レジリエンス	厳しい状況の改善に向けた意識と実践

⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

総合的な探究の時間の担当者や地域学の担当者、防災教育プロジェクトチームや生徒会担当教員などが連携しながら取組を推進している。地域との連携は本事業の事業統括主任である地域学担当教員や、防災教育プロジェクトチームの責任者である教頭を中心として外部との連絡調整を行い、各学年担当等で取組を推進した。

⑥カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて  
カリキュラム開発等専門家

- ・カリキュラム開発全般に関わる計画への指導助言
- ・発表会等における評価者としての関わりと教員との振り返り
- ・コンソーシアム委員会への出席・指導・助言

地域協働学習実施支援員

- ・地域人材との連携や活用に向けての連絡・調整
- ・運営指導委員会、コンソーシアム委員会、校内推進委員会における指導・助言
- ・授業を参加し、生徒の状態を見たうえでの教員との振り返り

⑦学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

カリキュラム開発等専門家との協議をもとに、担当者間の協議を基本的に毎週実施し進捗状況の確認や課題の洗い出し・改善方法の検討等を行った。特に、カリキュラム開発等専門家との協議は、オンライン会議システムを用いることにより多く実施することができ、きめ細やかな対応ができた。また、成果検証のアンケート結果等を管理職と分析し、取組状況と成果と課題等についての検討を行った。

⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

京都大学矢守研究室研究員の杉山氏には本校防災委員会の取組や避難訓練時の防災活動について意見や助言をいただいた。また、黒潮町情報防災課とつないでいただき、防災活動に関して地域と連携した取組を行うことができた。

大方高校地域学校協働活動推進委員の西村氏には、アーティスト in レジデンスという活動を行っている地元出身の写真家とつないでいただき、地域に芸術を取り込んだ活動の中で、生徒と一緒に『未来へのメモワール』を地域住民に取材していく活動をご提案いただいた。新型コロナウイルス感染症拡大のためオンラインでの交流となり、来校して一緒に活動することはできなかった。取材については次年度に検討していくことになっている。

山崎氏には、1年生のディベート大会では評価者として参加いただき、生徒の振り返りの時間にはコーチングの知識を活かしてファシリテーターをしていただいた。

高知大学次世代地域創造センター客員准教授委員の川村氏には、カリキュラム開発等専門家としての指導・助言のほか、プレゼンテーション練習や発表会の際に講評者として指導・助言をいただき、生徒にも直接関わっていただいた。

地域学校協働活動推進委員の西村氏は、授業や発表会において生徒と関わりをもっていた

だき指導・助言をいただいた。そのほか、オンラインによる外部人材との交流等における人材の紹介を多数の方にしていただいた。

⑨運営指導委員会等、取組に対する指導・助言等に関する専門家からの支援について

運営指導委員の方から、運営指導委員会において、本事業に対しての指導や助言をいただいた。特に、「OODAループの回し方やPDCAとのケースによつての使い分け」、「ルーブリック評価」、「振り返りの活用」、「探究活動の重要性」等については専門的な見地から指導・助言をいただいた。

⑩類型毎の趣旨に応じた取組について

「防災」をキーワードとした探究活動を展開することにより、地域の「防災」や魅力化に向けた課題解決を進め、未来の「地域の創り手」人材の育成を目指した取組を展開してきた。生徒の自己評価や外部評価において、肯定的な評価をもらうことができた。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、地域の方々などを集めての発表会はできなかったが、校内での発表会をオンライン配信し、運営指導委員会やコンソーシアムの委員に発表を見てもらい、助言等をいただくことができた。

⑪成果の普及方法・実績について

地域学・総合的な探究の時間に関する取組をホームページで紹介した。また、発表会をオンライン配信し、運営指導委員会やコンソーシアム委員会の委員が視聴できるようにした。3年生の探究活動の発表は、本事業を受けている学校にも案内をしてオンライン配信した。

毎月発行している「ソピアの旗だより」においても、生徒の活動の様子等を、県西部地域の中学校3年生とその保護者、黒潮町民に対して紹介した。

1 1 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 事業実施において設定した目標におけるアウトカム目標の達成状況

実施したアンケートの結果分析から、現時点では全ての学年において目標を達成できているとは言えない状況であるが、今後の取組を通して達成に向けた期待は十分あると考えている。アンケートでは昨年より下がった項目もあるが、生徒の聞き取りからは、学んだからこそ自分ができていないことに気づき、評価を下げたという声も聞かれ、今後に向けての意欲を感じた場面もあった。

高知県教育委員会が独自に実施する「高知県オリジナルアンケート」（別添資料）については、全体的に見ると肯定的な回答が多く見られたが、目標として設定（目標設定シート）している「地域への貢献等の活動を通して、自己効力感や自己有用感をもつことができた」、「地域の課題解決に取り組むことにより、自身の将来の夢や目標をもつことにつながった」と回答する生徒の割合は、目標値を大きく下回る結果となった。コロナ禍ではあるが、オンラインによる交流等も多数行い、昨年より交流できている。しかし、対面での活動やボランティア活動等が制限されたことは目標を大きく下回る結果の大きな原因の一つであると考えられる。

「物事に取り組む際には、目標を立てその達成に向けて努力することができる」と回答している生徒の割合は70%であり、昨年の80%より下がる結果となった。生徒の様子では、探究活動を通して見通しを立て、それに向けて最後まで取り組むことができるようになっているが実感できていない生徒もおり、振り返り等でできたことを確認させていきたい。

地元（本校の設定は県内）への定着率については、約75%の生徒が地元での進学・就職が決まっており、県内就職者は89%となっている。

「高校魅力化評価システム」の結果は、学年別に振り返ると、1年生は「複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ」の割合が74.2%と、他の学年と比較してもかなり高い水準である。これは、ディベートや論ずる活動などの答えのない問いに複数回挑戦させたこと、プラ



ンニングや構造化といった技法も回数を重ね習得させたことの成果と思われる。一方、「相手の意見を丁寧に聞くことができる」の割合が83.9%と、他の学年と比較してもかなり低い水準である。ディスカッション等でも、自身の考えを相手に伝えることに夢中になっており、建設的にコミュニケーションをとることができていない場面もあり、相手のことを考えられるようにさせていきたい。全体として、答えのない問いにあきらめず考え抜く力（探究の基礎）は1年間で一定醸成された。次年度も多角的に物事を捉え探究活動を行っていくとともに、ディスカッションする力や受容する力を身に付けさせていきたい。

2年生は、粘り強さの項目が高く、中でも、「うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む」が高かった。答えのない課題に対して1年間取り組んできたことが結果につながったと考えられる。一方、表現力の項目が(55.4%)と他学年と比較しても低い。答えのない活動に取り組んできたが、答えがないからこそ自分の出した答えに自信をもてず、その結果それを表現することに苦手意識をもっていた可能性がある。次年度は、正解のない活動であることを生徒に何度も周知していき、失敗してもよいという雰囲気づくりを学年団でしっかり行っていきたい。

3年生は、社会性に関わる自己認識が全体的に向上しており、特に「社会参画意識」が上昇している。これは、総合的な探究の時間の活動で、社会が抱えている課題解決学習に取り組ませたことで自己肯定感とともに社会人としての意識も芽生えたのではないかと考える。一方、課題設定力の「現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる」が昨年度と比べ減少している。また他学年と比べても低い水準である。これは、総合的な探究の時間で実施した課題発見学習において、課題設定に関するルーブリック評価を基に指導者の評価と自分自身の評価を定期的に付けさせていたことで、自分基準ではなく、客観的に自分を捉える機会が増えたことが要因だと推察する。今年度の活動で課題発見の難しさを自覚したと述べる生徒も多数いたので、良い意味で実力を客観的に捉え始められたのではないかと思う。

アンケート結果では、指導者の認識と生徒の認識にずれがある項目も多く見られる。そのため、フィードバックを丁寧に行える時間を設ける必要があり、指導者の評価と指導の一体化を着実に実践し、生徒の成長・変容を捉え、適切にコーチングする力を養う必要を感じる。次年度のカリキュラム作成にあたって、分析結果を教員間で共有し、効果的なカリキュラム設計を図っていきたい。

実施したアンケートは以下のようになっている。

	項目 アンケート	実施主体	対象	実施時期	実施形態
1	高校魅力化評価システム	三菱UFJリサーチ&コンサルティング	生徒・地域住民等	令和3年11月	選択
2	防災活動や地域課題解決学習に関する生徒アンケート	大方高校	生徒	令和3年9月、 令和4年1月	選択・記述
3	高知県オリジナルアンケート	高知県教育委員会事務局 高等学校課	県立高等学校の生徒	令和3年4月・ 11月、 令和4年2月	選択

<添付資料> 目標設定シート、高校魅力化評価システム・防災活動や地域課題解決学習に関する生徒アンケート（生徒対象）・高知県オリジナルアンケート（生徒対象）

## (2) 発表会や各種会議の開催・参加

地域学においては出前授業を行うとともに、ふるさとキャリア教育における発表も地元ケーブルテレビで配信をした。また、総合的な探究の時間では、様々な活動を運営指導委員会やコンソーシアムの委員の皆様、オンライン配信により視聴していただき感想等をもらうとともに、地域協働学習実施支援員やカリキュラム開発等専門家の方に参加（オンライン含む）いただき、生徒への講評をしてもらった。

教職員が参加した会議等には以下のものがある。

時期	テーマ他	参加者数	実施主体
4月	校内研修会 ・テーマ「これからの総合的な探究の時間の考え方」 高知大学次世代地域創造センター川村晶子准教授 ・テーマ「コーチング」 Noks labo 山崎直子	20名	大方高校
12月	オンラインイベント 高校探究プロジェクト 瞳輝く学びの実装化 ～生徒のため、教師のため、未来のため～	4名	東京学芸大学
1月	「地域との協働による高等学校教育改革推進事業全国サミット」	7名	文部科学省

### (3) 地域でのフィールドワーク等や連携した活動の実施

フィールドワークやインタビューを実施するのが難しい状況ではあったが、少人数対応やオンライン会議システムの活用、感染状況が比較的落ち着いた時期に以下のことを実施した。

時期	テーマ	内容
4月	新しい避難場所の整備	住民との避難路検証で新しく設定された、避難場所にベンチを設置し、桜の木を植樹
10月	出前授業	大方中学校、佐賀中学校2年生との交流授業。『未来へのメモワール』『オリジナル HUG』を中心とした授業を実施
10月	町内のお店を知る	「黒潮町のみんなが幸せになる買い物」を考えるにあたって、現状の買い物を知る、お店の人の声を聞くために町内14か所のお店にインタビューを実施
11月	津波避難タワーを清掃しよう	地区内の津波避難タワーが、高齢化の影響もあり長年清掃活動ができない状態にあることを聞いた生徒たちが、清掃活動にチャレンジ
11月	活動の発表	黒潮町地区防災計画シンポジウムで、地域学の活動を中心とした本校防災活動を発表
12月	ディベート	「日本の教育政策として、制服を廃止すべきである」というテーマでディベートを開催
1月	出前授業	入野小学校5年生との交流授業。『未来へのメモワール』を中心とした授業を実施
1月	ワールドカフェ	13名の社会人と、「未来の仕事について考える」をテーマに、オンラインでディスカッションを行った。
1月	高齢者との避難訓練	町内の芝地区の高齢者の散歩コースである入野の浜から、巨大地震発生の想定のもと、発活から5分後に3方向に分かれて避難開始。逃げトレアプリを活用して避難場所までの経路確認と安全確認の訓練の実施
2月	アイデア磨き アイデア発表会	「黒潮町みんなが幸せになる買い物」のアイデアを外部の方に発表し、アドバイス・ご意見をいただき、それらを基にアイデアを練り直し、発表会を実施

### 1.2 次年度以降の課題及び改善点

昨年度の課題であったルーブリック評価を本校の「目指す生徒像」にそって作成し、本年度当初に教員間で共有した。生徒にもオリエンテーションで示し、各単元においても示した。昨年よりは目指す姿、つけるべき力のイメージができたと思うが、まだまだそのメリットを活かし切れていない。

探究学習を「自分ゴト化」できず、主体的に学習に向かえない生徒に対する指導・支援方法が課題となっている。コーチングなどの教員研修も必要となってくるが、まずは学年団内で困り感や進捗状況の共有ができる環境づくりが必要である。定期的な共有会を週に1回開催する方向で調整している。

#### 【担当者】

担当課	高等学校振興課	T E L	088-821-4542
氏名	中越 啓介	F A X	088-821-4547
職名	指導主事	e-mail	keisuke_nakagoshi@ken4.pref.kochi.lg.jp